校長だより　向日葵　　３月１０日　廣渡一郎

◆◇◆匂い◆◇◆

支度　　黒田三郎

何の匂いでしょう　これは
これは春の匂い　真新しい着地（きじ）の匂い　真新しい革の匂い
新しいものの　新しい匂い

匂いのなかに　希望も　夢も　幸福も　うっとりと　浮かんでくるようです
ごったがえす　人いきれのさなかで　　だけどちょっぴり　気がかりです
心の支度は　どうでしょう　　もうできましたか

●春の匂いがしました。
昨日の朝の校門です。どんな匂い，と問われても
うまく説明ができません。
でも確かにあれは，「春の匂い」なのです。

●「におい」と似た言葉に「かおり」があります。
二つの言葉にどんな意味の違いがあるのか。改めて調べてみました。

▼「匂い」は，それが快いものであっても，快くないものであっても使うことができます。
つまり，嗅覚で感じ取れるもの全てを「匂い」という言葉で表すことができます。
▼「匂い」は「いい匂い」と使うことが多く，一般的には良い意味で使われることが多いです。
また，昔の文章や古めかしい文章などでは趣があるものに対して「匂い」という言葉を
用いることもあります。
▼「香り」は嗅覚で感じ取れるもののうち快いもののことを表します。
また，「匂い」と表現するよりも高級な印象になります。
例えば「ラベンダーのすがすがしい匂い」と「ラベンダーのすがすがしい香り」では
後者のほうが高級で上品というイメージになります。
このように「香り」はとても快く感じられるものだけを表す言葉なのです。

●春の「香り」がする，と表現したほうがよいと感じる方もいるかも知れません。
ただ私が感じる「あれ」はやっぱり，春の「匂い」と表現した方が
ぴったりの気がするのです。